

ジョイントリリース

中国アンチ・ドーピング機構（CHINADA）と日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が クリーンスポーツを推進するための覚書を締結

2018年11月17日、日本アンチ・ドーピング機構（以下、JADA）は、中国アンチ・ドーピング機構（以下、CHINADA）と、クリーンスポーツを推進するための覚書を締結いたしました。

本覚書は、2020年東京、2022年北京でのオリンピック・パラリンピック競技大会をホストする国のアンチ・ドーピング機関として、クリーンなスポーツ、クリーンなアスリートを守る活動を推進していくことを目的としています。JADA 会長 鈴木秀典と、CHINADA 事務総長 Chen Zhiyu 氏は、組織間での連携、情報共有を図り、アンチ・ドーピング活動をより一層推進していくことで合意し、覚書への署名を行いました。



以下の項目について、CHINADA と JADA は連携・協力を行います。

- オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、ドーピング・コントロールの領域だけでなく、アンチ・ドーピング政策やその実効性向上における経験や情報を共有すること
- 世界アンチ・ドーピング機構が推進するアンチ・ドーピング教育プログラムに則り、現行で実施されている教育プログラムをより発展、推進していくこと
- ウェブサイト等を介して、各ステークホルダーやメディアとの連携を構築していくこと
- アンチ・ドーピングに関する調査研究において連携すること



2018年11月17日